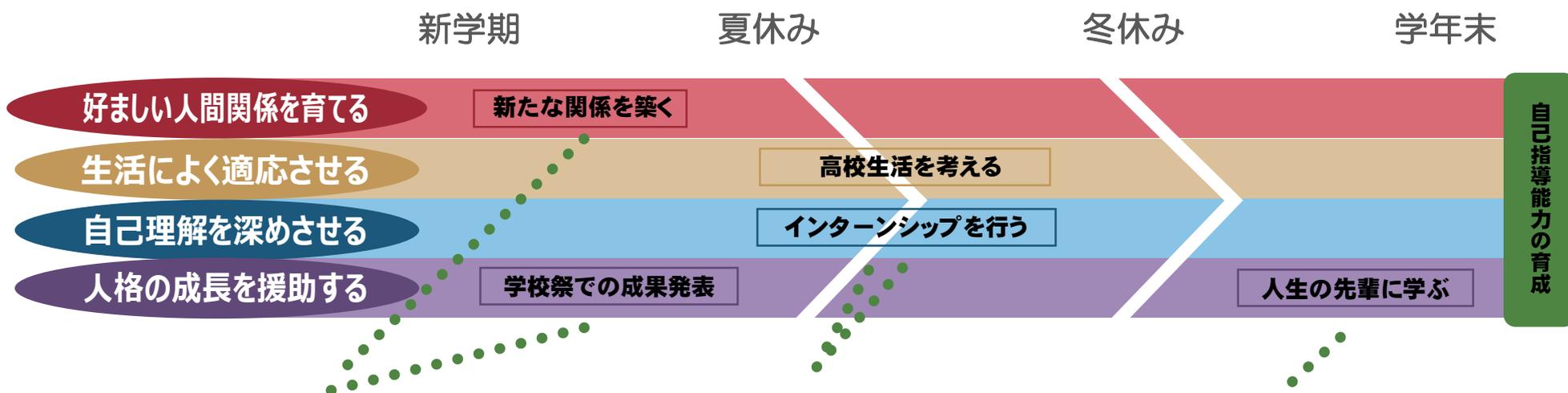


4 指導計画例 高等学校



学校行事の前後に

学校行事は、望ましい集団活動を通して、好ましい人間関係を育てる良い機会となります。生徒相互の人間的な触れ合いや信頼関係の大切さを経験させることが大切です。

同時に、行事を通して、人格の成長を援助する機会でもあります。自律的な集団行動を通して望ましい体験を得ることにより、自己の在り方や生き方についての自覚を深めさせることが大切です。

夏季休業の前後に

夏季休業前には、1学期の振り返りの中で、集団の一員として、よりよい集団生活を送るための自己の課題について考えさせ、生活によく適応させる必要があります。

また、夏季休業は、学習や進路に関して興味・関心の分野を広げたり深めたりする良い期間です。そのためには、夏季休業の前には、自己の個性や適性、長所と短所、興味や関心の動向などを把握させたり確認させたりするなどして、自己理解を深めさせることが大切です。

新年度に向けて

学年末においては、1年間の学びを振り返らせたり、自己の将来を見つめさせたりすることで、新たな目標や課題について新年度から取り組もうとする意欲を高めさせることが大切です。

また、自己の在り方や生き方について主体的に考えさせることにより、人格の成長を援助する良い機会とすることが大切です。

好ましい人間関係を育てる

新たな関係を築く（4月）

キーワード： 表現力 仲間意識 人間関係

中学校から入学したばかりの新入生にとっては、新たな人間関係づくりを行うこととなります。人と関わる力や自己表現力、他者への思いやりなど、好ましい人間関係を育てるために必要な資質や能力を、特別活動や総合的な学習の時間等の活動を通して、感じたり考えたりさせることが重要です。

宿泊研修等、平素と異なる生活環境の中での体験活動を通し、望ましい集団生活の在り方を考えることができるとともに、集団への帰属意識や連帯感を高め、公共の精神を養うなど、学校生活を通して新しい人間関係を築いていくことができます。

対象	第1学年	教育課程上の位置付け	特別活動 各教科等
指導者	学級担任、生徒会担当、教科担任		
時期	○活動の概要	□指導のポイント	
4月	<p>HR活動で関係をつくる</p> <ul style="list-style-type: none"> ○新たな集団に対して安心感をもつための、エンカウターのエクササイズを行う。 <p>生徒会活動等で宿泊研修の準備をする</p> <ul style="list-style-type: none"> ○宿泊研修実行委員会を中心に、研修内容を立案したり運営方法を考えたりする。 	<ul style="list-style-type: none"> □生徒同士でコミュニケーションが図られるよう配慮する。 □状況を見ながら、グループの構成を随時変更するなどして、全ての生徒が自分を表現する力をもてるよう工夫する。 □生徒一人一人が存在感をもち、積極的に研修に参加できる内容となるよう考えさせる。 	
	<p>宿泊研修において人間関係を築く【特別活動】</p>		<ul style="list-style-type: none"> □自分を表現したり、他者を理解したりすることにより、人間関係が次第に築かれていくことを気付くよう指導する。 □コミュニケーションを図ることが苦手な生徒への支援を行い、学級全体で仲間意識を醸成できるようにする。 □学校祭の成功に向けて、建設的な話し合いとなるよう、一人一人の生徒の様子を注意深く観察する。 □他の学級のことを認め合い、互いに切磋琢磨していくことの大切さを生徒に話す。
5月	<p>HR活動で振り返る</p> <ul style="list-style-type: none"> ○宿泊研修の振り返りにおいて、各自で気付いたことや感想を書き、各自でまとめる。 ○各自の感想を基にグループや学級全体で話し合い、学校祭へ向けての計画などを立てる。 <p>各教科で協力する</p> <ul style="list-style-type: none"> ○授業の中で協働学習に取り組み、ペアやグループでの活動を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> □学級全体で振り返りを共有するとともに、保護者へも積極的な情報発信を行い、学級の連帯感を高めていく。 □宿泊研修等を通して築いた人間関係を基に、今後の生徒への関わりの見直しをもつ。 □互いのことを認め合いながら学級全体のよりよい人間関係を構築できるよう指導方法を工夫し、各教科で情報共有する。 	

生活によく適応させる

高校生活を考える（6月）

キーワード： 進路 在り方や生き方 適性

充実した高校生活を送るためには、卒業時の進路選択を含めて将来自分がどのように生きていくのかを考え、生活に適応させる必要があります。科目選択のガイダンスを充実させることにより、自分の進路について真剣に考え、判断し、決定する機会となり、日々の生活の在り方を自ら考えていくことになります。

また、自分の生活に向き合うことで、現在及び将来において人間としての在り方や生き方を考え、行動する能力や態度を養うことにもつながります。生徒に多様な考えをもたせるとともに、生徒が主体的に、自己の在り方や生き方を見つめることができるようにすることが大切です。

対象	第1学年	教育課程上の位置付け	特別活動 各教科等 総合的な学習の時間
指導者	学級担任、全教職員		
時期	○活動の概要		□指導のポイント
6月	<p>HR活動でディスカッションをする</p> <p>○グループやクラス全体で、高校としての生活の在り方や自分の進路目標について考えたり、ディスカッションしたりする。</p> <p>総合的な学習の時間で進路について考える</p> <p>○ワークシート等を用いて、自己の在り方や生き方、進路について考える。</p>	<p>□HRにおける落ち着いた雰囲気づくりの重要性を感じ取らせ、日常生活の充実が進路実現につながることを理解させる</p> <p>□学ぶことや働くこと、自己の在り方や生き方について具体的に考えさせる。</p>	
科目選択のガイダンスを実施する【特別活動】			
	<p>○学年集会において、教科担当の教員から各科目の概要等の説明を聞く。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p style="text-align: center;">《活動例1》系統別模擬授業</p> <p>○各系統の特徴的な授業を複数回体験する。 (例) 理系・・・物理基礎、地理Bなど 文系・・・地学基礎、日本史Bなど</p> <p style="text-align: center;">《活動例2》科目選択交流会</p> <p>○2、3年生の科目選択アドバイザーから、科目や系統について説明を聞いたり、質問したりする。</p> </div> <p>○HRで自己の在り方や生き方、進路についてワークシートにまとめ、選択科目について考える。</p>	<p>□進路目標に合った選択を行うことが、進路実現につながり、充実した高校生活となることを理解させる。</p> <p>□情報を収集したり活用したりする力が、今後の生活において重要であることも併せて指導する。</p> <p>□科目選択アドバイザーである2、3年生の代表者には、高校生活の過ごし方についてのアドバイスもできるよう事前の打合せで確認する。</p> <p>□自己の在り方や生き方が、自分の希望する進路にどのように影響するかを考えさせる。</p>	
7月	<p>HR活動等で自己理解を深める</p> <p>○職業適性検査の結果を踏まえ、自分の適性に合った進路について考えたり、職業についてインターネット等で調べたりする。</p> <p>各教科等の活動で生活のリズムを見直す</p> <p>○各教科の各自の目標の達成状況に基づき、学習や生活の習慣を見直す。</p>	<p>□調査結果等を基に、保護者と話し合う時間を十分設けることで、自分の適性や性格、興味・関心等を客観的、多面的に捉えさせるようにする。</p> <p>□必要に応じて個別に対応し、生徒一人一人の生活習慣の改善を支援する。</p>	

人格の成長を援助する

学校祭での成果発表（7月）

キーワード： コミュニケーション 人間関係 自己の役割や責任

学校祭において、仲間と協力しながら商品企画の発表をしたり、保護者や地域の方々と販売実習を通して交流したりすることで、生徒が社会的な資質や行動力を高めることができるように指導します。

望ましい集団活動を通して、他者との協働を図り、コミュニケーション能力の向上を図るとともに、生徒が社会的な資質等を伸ばさせようとする態度を養うことで、自分を成長させようとする意欲を高めます。

他者との協働を通して、人間関係形成能力やコミュニケーション能力を育むとともに、自己決定の場面を設けて生徒の自主的な活動を認めるなどの支援が大切です。

対象	全学年	教育課程上の位置付け	特別活動 各教科等
指導者	学級担任、生徒会担当、教科担任		
時期	○活動の概要		□指導のポイント
6月	<p>HR活動で話し合いをする</p> <ul style="list-style-type: none"> ○学校祭のテーマや一人一人の役割を決める。 ○クラスの発表内容や一人一人の役割について話し合う。 <p>生徒会活動で学校祭の計画を立てる</p> <ul style="list-style-type: none"> ○代表委員会及び運営委員会を開催し、学校祭のテーマやルールなどを決める。 ○各クラスの意見や各委員会の活動を取り入れるなどして、学校全体で協力的な活動になるよう計画を立てる。 <p>専門科目で発表や販売の準備をする</p> <ul style="list-style-type: none"> ○学校祭における販売、発表の準備を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> □事前の準備において、他者の気持ちを考えた行動ができるよう、教育相談の手法に関するワークショップを取り入れるなどして、円滑にコミュニケーションを図ろうとする意識を高めさせる。 □HR通信の活用やHRでの話し合いを通して、全員の参加を促し、相互に高め合い、自己を磨く活動であることを意識させるよう指導する。 	
7月	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> 学校祭で販売実習をする【特別活動】 </div> <ul style="list-style-type: none"> ○各学年が日常の学習の成果を発表する。 【活動内容①専門科目の企画商品の販売】 ・ポスター作成や模擬店のPR活動を行う。 ・選択授業で生産した野菜や加工品を販売する。 ・地域の小学生と一緒に野菜の収穫体験を行う。 【活動内容②販売実習報告会】 ・実際に学校外で行った販売実習での学習の成果を模造紙にまとめ、会場に掲示する。 ・次年度の販売実習に向け、グループごとに商品企画についてのプレゼンテーションを行う。 		
8月	<p>HR活動で振り返りを行う</p> <ul style="list-style-type: none"> ○学校祭における振り返りを行い、クラス及び自己の成果について考える。 <p>各教科で成果の振り返りを行う</p> <ul style="list-style-type: none"> ○成果の振り返り及び平素の学習活動との関わりについて確認を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> □話し合いにおいて生徒同士が受容、傾聴に努め、個々の生徒のよさを認め合うよう指導する。 □平素の学習の積み重ねが大切であることを確認する。 □生徒が学習の成果や自らの成長を実感できるような振り返りの場を工夫し、学習意欲の向上を図る。 	

自己理解を深めさせる

インターンシップを行う（9月）

キーワード： 適性 自己理解

高校生活の中盤に差し掛かった時期には、就業体験活動やその準備を通して、自己の在り方や生き方や、社会の一員としての自己の関わり方を考えることが大切です。
 インターンシップによって収集した情報を、社会への貢献や将来の方向性などの視点をもって分析することで、自己の在り方や生き方について考え、行動する能力を育成していきます。

対象	第2学年	教育課程上の位置付け	総合的な学習の時間 特別活動
指導者	学級担任		
時期	○活動の概要		□指導のポイント
9月	総合的な学習の時間で調べる ○インターンシップを行う職業の仕事内容について調べ、自分の適性や特技、長所等に目を向けながら、自分の職業観や勤労観をまとめる。 総合的な学習の時間で交流する ○職業人講話を聞き、職業について自分の考えをまとめ、生徒同士で交流する。		□産業・経済の動向に関する情報等、現実に即した情報を収集させることで、自分のこととして捉えられるよう促す。 □生徒のニーズや 適性 に合ったインターンシップとなるよう、様々な職種の企業と連携を図る。 □職業に対する理解を深めるとともに、自己の 適性 を考えさせる。
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px auto; width: fit-content;"> 調べた職業に関わるインターンシップを行う【総合的な学習の時間】 </div> ○各事業所でインターンシップを行う。 ○礼儀・言葉遣い、電話対応などの実務的な業務等を確実に実践する。 ○各日、業務日誌を記入し、その日の感じたことなどをしっかりと記録する。		
10月	HR活動で振り返る ○受入先のアンケートや業務日誌を基に、インターンシップで学んだことを振り返り、グループで意見交流する。 ○インターンシップ前後での自分の勤労観・職業観について変化をまとめる。 インターンシップ報告会で発表する ○代表者が全校生徒の前で発表する。 進路ガイダンスで理解を深める ○進路ガイダンスにおいて、自分の将来の適性について考える。 ○インターンシップ前後での気持ちの変容について考えたりする。		□成功体験や失敗体験なども含めて意見交流できるようにすることで仕事のやりがいなどを一人一人の生徒に考えさせる。 □今までの自分を振り返り、現在の自分についてじっくり考える機会とし、 自己理解 を深めるよう指導する。 □インターンシップの活動を共有化させたり、個々の進路意識を明確化させたりするなど、自分のことを見つめ直させる。 □質疑応答の場面を多く取り入れるなど、生徒が主体的に考えられるようガイダンスの形式を工夫する。

人格の成長を援助する

人生の先輩に学ぶ（3月）

キーワード： 職業観・勤労観 自己の生き方

自己の在り方や生き方について考え、地域や社会で働く方々と交流する体験を通して、生徒が社会的な資質や社会貢献への意識等を高めることができるよう指導します。

職業調べや座談会などを通して、働くことの意義や社会との関わり方等について学び、自己の在り方や生き方について主体的に考えるようします。

社会や他者との関わり方を通して、自己の未来を見つめ、人間関係形成能力やコミュニケーション能力を育むとともに、主体的な自己決定の場面を設けることで、人格の成長を援助することが大切です。

対象	第1学年	教育課程上の位置付け	特別活動
指導者	学級担任		
時期	○活動の概要		□指導のポイント
2月	<p>HR活動で調べ学習をする</p> <p>○職業調べ学習を行い、職業に対する理解と働くことの意義について考えを深める。</p> <p>特別活動で座談会の準備をする</p> <p>○グループ毎（職業別）に集まり、個々人で調べた内容について話し合いを行い、情報の共有を図る。</p> <p>○座談会における質問内容や当日の役割などを決める。</p>	<p>□学習を通して、自己の職業観・勤労観がどのように変化したかを気付かせる。</p> <p>□将来について考える態度及び主体的に学習する意欲を育成し、自己の生き方を関連付けて指導する。</p>	
3月	座談会を実施する【特別活動】		
	<p>○希望したグループ（職業別）に分かれ、座談会を行う。 《具体的な活動》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自己紹介をする ・各職種の社会人の方に、仕事のやりがいや、その職業に就くために努力することなど質問する。 ・グループ内で交流をする。（感想や考えを発表する。） ・社会人から助言をいただき、今後の学校生活について考える。 ・ワークシートに座談会のまとめを記入する。 	<p>□少人数のグループに分け、主体的に発言ができるよう工夫する。</p> <p>□事前活動で調べた内容や質問事項を聞くことにより、職業に対する知識や就業への意識が高まるよう指導する。</p> <p>□社会人と円滑にコミュニケーションをとろうとする態度を育てる。</p> <p>□グループ内で意見交流することで、自己の考えが深まるよう工夫する。</p> <p>□ワークシートで学習内容を整理し、効果的な発表ができるよう指導する。</p>	
	<p>HRで振り返る</p> <p>○座談会の成果について振り返りを行う。</p> <p>○他のグループの発表内容からも自己の生き方について考えを深める。</p>	<p>□自己の適性や今後に努力すべきことなどについて主体的に考えさせ、自己の生き方について深く考えるように指導する。</p> <p>□生徒が調べた内容を互いに共有し他者の活動を認めるとともに、情報を活用する力や広い視点で物事を捉える力の育成を図る。</p>	